

23 日調査メモ

調査者

北見工業大学 河川防災システム研究室	渡邊康玄
河川・水文学研究室	早川博
凍土・土質研究室	川口貴之
地盤工学, 凍土・土質研究室	川尻峻三
寒地土木研究所 寒地河川チーム	岡部博一
	島田友典

調査位置

1. 東垂川右岸堤防の流失箇所
2. 仁頃川の常呂川合流点左岸の破堤氾濫箇所
3. KP30.8 近傍左岸の堤外地における氾濫箇所
4. KP35.6 農地の流失箇所



・東垂川右岸堤防の流失状況

完全に流失している区間と堤内側のみ浸食されている区間が連続している（写真1）。周辺は越水した痕跡が堤防天端に存在しているものの周辺の草本の倒伏教協からはそれほど越流推進は大きくなかったものと推察される（写真2）。完全に流失している箇所では調査時点（23日午後5時）段階においてもわずかではあるが堤内側へ河川水が流出している状況がうかがえた（写真3）。

上流側流失断面近傍において氾濫流の色が河川水や氾濫水に比べ濃くなっていた（写真4）。また、流失した堤防箇所では小規模な泡が時折発生していた（写真5）。



写真-1



写真-2



写真-3



写真-4



写真-5

・仁頃川の常呂川合流点左岸の破堤氾濫箇所

仁頃川の常呂川合流点である川口橋から下流側左岸から氾濫原へ河川水の流出が確認された。流出部は2か所の小堤の流出があり、そのやや下流でも氾濫流の戻り部に1か所の小堤の流出が認められた。



写真-6



・ KP30.8 近傍左岸の堤外地における氾濫箇所

仁頃川の常呂川合流の直上流の位置にあたり、この部分は氾濫原を含めた河道地形を節腹連続河道とした場合の節の直下流にあたる。ここで氾濫した流れがそのまま、前述の仁頃川の常呂川合流点左岸の破堤箇所へと向かっていったものと推定される。



写真-7



・ KP35.6 農地の流失箇所

直上流で氾濫した流れが農地内の流れに直行する道路を流出させた。洗掘部は軟岩が露出しており表土が流出している状況であった。



写真-8



連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 河川防災システム研究室 渡邊康玄

eメール： [y-watanb \(at\) mail.kitami-it.ac.jp](mailto:y-watanb@mail.kitami-it.ac.jp)